

活用事例

地方再生

PR

海外顧客

商品自ら世界に売り込む お客様は情報を消費している

有名な言葉ですが、世界で売りたいのであれば良さを伝える必要があります。どのような方法で世界の人々に良さを伝えるべきでしょうか？

「いくら素晴らしいものをつくっても、伝えなければ、ないのと同じ」



方法1 現地で試食会？

食品の場合は、助成金などを使って海外で試食会などが行われます。その方法も勿論良いのですが、島国日本。渡航費も時間もかかります。



方法2 ネット広告？

ネット広告もよいのですが、全世界をターゲットになるとかなり専門的な知識や設定管理も必要です。また広告コストも上がっており変動します。



本物タグは海外でなぜスキャンされる？

- 商品にはりつけたタグ(QR/NFCなど)の読み込み率は圧倒的に海外の方がたかいです。日本の10倍以上の読み込まれます(当社実績データより)
- 日本のコンビニで偽物を見かけることはありませんが海外では多くあります。
- わざわざ高い日本産を期待して買うわけですから本物かを調べる



その接触機会を活用しよう！

- 接触機会を利用して「ファンにしましょう」
- 真贋判定のあと、世界中の消費者にPRしましょう。
- 食べ方、産地の事、流通経路など弊社では様々なコンテンツとの連携が可能です。



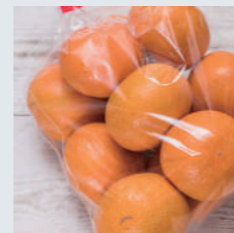
世界から1秒表示！多言語サイトも提供

せっかく海外消費者の訪問があってもサイトが日本語だと誰もファンになれません。また日本は島国。海外からのWEBサイトへのアクセスがとても遅い場合も。全世界から高速配信する多言語サイトを無償提供します。

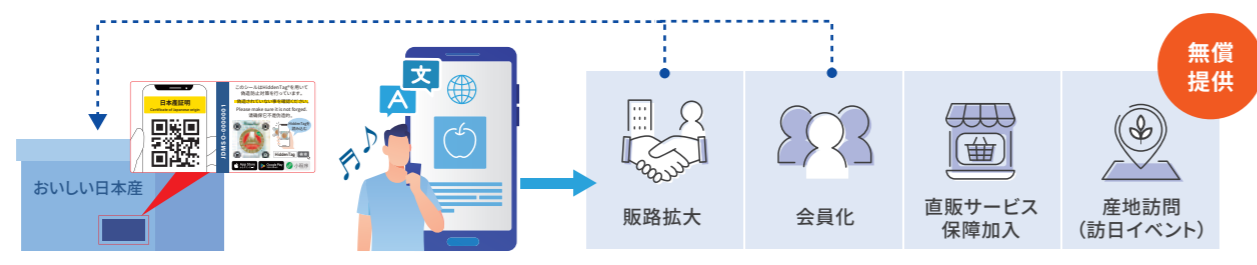


商品の情報を消費している

民俗学者の野口憲一のアスパラガスの話があります。日本の小松菜はなぜ100円なのか。1000円の付加価値をつけようと思わないのか。そして成功しているキロ5000円の仏産アスパラガス。「記号的価値」が重要と述べ加賀野菜などを例に挙げています。産地をブランド化しPRする必要があります。



商品が自ら販促！お客様に何度でも買ってもらえるD2Cの仕組みづくりを構築



活用事例

農業DX

輸出拡大

農家に負担をかけないDX 選果場が生産性を上げる

農業におけるデータの収集を、選果場などで簡単に行う事が可能になります。農家それぞれにスマホで覚えてもらうよりも効率的で写真撮影もAI学習に利用できる品質で撮影が可能です。輸出業務の効率化や、品質向上に役立っています。



MAFF 農林水産省
2022年 農水省大規模かんしよ事業
農水省の大規模輸出事業にて弊社のシステムが導入され、輸出時の全品検査を行いました輸出時の損害賠償額の削減に大きく貢献。

ホクレン
2023年 北海道ホクレン様にて
輸出向け農産物のトレーサビリティにて稼働輸出向けの商材を全品検査するとともにQC向上の為の仕組みとして導入頂きました。自動化コンベアにより人件費も削減。



活用事例

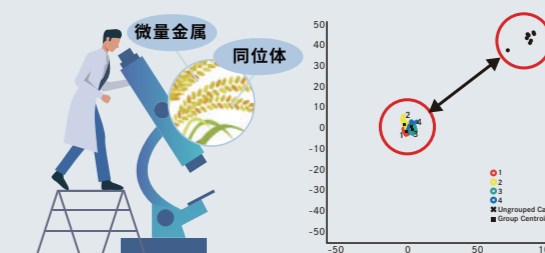
バイオ技術

ブランド価値

地方ブランド

次世代原産地証明は、 機材など一切不要で証明

種や苗などが盗まれない法律を作っても、取り締まりは中々難しい現状、盗まれて「違う土地で育てられたか」を特定する次世代原産地証明。



輸出 中身の入替にも対応



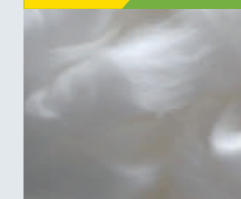
中身の入替にも対応可能です。製造方法をまねてもその土地の水などの固有の情報を調査し判定することが出来ます。またトレーサビリティでは、中身が入れ替えられる事例が多発。SG政府ではこの技術で豚肉の抜き検査を行っています。

輸出 ○○産を証明できます



すでに和牛はトレーサビリティが存在しますが、切り刻まれたりした場合、それが本当かどうか調べる事が出来ません。数グラムの肉片からでも「産地」を世界中から証明できます。

国内 原材料の産地を特定可能



日本産の原料使用や、○○産の小麦を使用とありますが証明が可能です。また「日本産原料を使用」についても証明可能になります。是非原料のQC調査やマーケティングにもご活用ください。

製造 工業製品も可能 (インク、化粧品成分など)



インクなど工業製品に関しても、調査可能です。高価な美術品の調査や事故現場の残留塗料がどの車の物か調査など実績があります。偽物であることの証明や裁判用の資料などにも使われています。